

運用容量算出における課題の検討について

2021年5月14日

- 昨年度、検討条件や課題について運用容量検討会において検討を行ってきた。今年度も引き続き、中・長期的課題について検討を行う。
- 検討条件に関して要望を受けた時は、対応を審議し、必要に応じて課題の追加や進め方の見直しを行う。
- 今年度の検討結果は10月の運用容量検討会にて取り纏め、算出方法の見直し内容について意見募集を行う。
- 今年度完了しなかった件名については、次年度以降検討することとする。

		2021年度の課題	内容	幹事会社 (協力会社)
1	新規	熱容量限度値に対する同期・電圧安定性の事前確認	<ul style="list-style-type: none"> 運用上での上限値だけでなく、設備上の上限値までの各限度値を明確にするため、年間運用容量算出時において、周波数維持限度値で決まる連系線を対象に、同期安定性・電圧安定性を夏季・冬季の熱容量限度値まで検討する 	広域 (中西6社)
2	新規	夏季・冬季熱容量の整理・公表	<ul style="list-style-type: none"> 連系線毎に異なっている熱容量を正確に把握するため、架空線の熱容量が熱容量限度値となっている連系線を対象に、夏季・冬季熱容量を整理し、運用容量算出方法・結果に反映する 	中部 (各社)
3	新規	周波数維持限度値算出における特殊日等の設定に関する見直し	<ul style="list-style-type: none"> 周波数維持限度値を算出している連系線において、日毎（昼・夜間）の特殊日等（平日・休日・特殊日）の設定を統一させるため、改めて特殊日等の設定方法詳細を整理、統一化を図る 	広域 (中西6社)